



JIC インフォメーション

第 179 号 2014 年 04 月 10 日

年 4 回 1・4・7・11 月の 10 日発行

1 部 500 円

発行所: JIC 国際親善交流センター 発行責任者: 伏田昌義

<http://www.jic-web.co.jp>

東京オフィス: 〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-14-8 YPC ビル 7F TEL: 03-3355-7294 jictokyo@jic-web.co.jp

大阪・ロシア留学デスク: 〒540-0032 大阪市中央区天満橋京町 2-13 ワキタ天満橋ビル 812 号 TEL: 06-6944-2341

はりねずみのジェーニャ



すぐにロシアも春

ロシア・旧ソ連
国際交流誌



3 月 8 日、9 日、横浜のそごう百貨店にて「旅のデパート 2014」が行われました。専門旅行社約 40 社が参加する大イベントで、JIC 旅行センターも今年初参加。「コケシカ」の沼田元気さんや、マトリョミン・アンサンブル「ボル⑧」のみなさんなどにもご協力いただき、ロシアの魅力を賑やかにアピールしてきました(写真右、大好評だったマトリョミン・コンサート)。



旅行・留学のお問い合わせはいつでもお気軽に JIC へどうぞ!
<http://www.jic-web.co.jp>

— 「旅のデパート」(横浜そごう百貨店)にて —

<JIC ロシアセミナー>

プーチン政権とロシアの行方

佐藤 親賢 (共同通信・前モスクワ支局長)・・・2P

本の紹介; ロシア文化の方舟・・・・・・・・・・10P

ロシア暮らしの中のかわいい民芸・・・・・・・・11P

ロシア文化フェスティバル 2014 IN JAPAN・・・12P

鉄路は続く～モスクワ・ベルリン寝台急行の旅

神保泰興 (JIC 東京)・・・・・・・・・・14P

<モスクワ通信>

E-メールと手紙やはがき、どちらがうれしい?・・・16P

JIC では、Jクラブ(JIC 友の会)会員を募集しています。
年 4 回の情報満載のインフォメーションをお届けします。

JIC ロシアセミナー

13 年 11 月 16 日／東京

昨年 11 月、東京にてロシア・セミナーを行いました。JIC ロシア語留学の OB で、2008 年 9 月から 12 年 12 月まで共同通信のモスクワ支局長として赴任しておられた佐藤親賢氏に、プーチン政権の今とこれからを話していただきました (編集部)。

プーチン政権とロシアの行方

佐藤親賢 (共同通信・前モスクワ支局長)

1996 年から 1997 年まで、JIC のお世話になってモスクワ大学に語学留学しました。その後、2003 年末から 3 年間で 2008 年 9 月から 4 年 3 ヶ月間、モスクワに赴任しました。現在は、共同通信社の外信部で、特派員が送ってきた原稿をチェックして配信する「デスク」の仕事をしています。

今日は「プーチン政権とロシアの行方」というテーマで話をさせていただきます。私がロシアから帰国したのが 13 年 1 月 3 日だったので、もう 1 年くらい経っているわけですが、現在三期目を務めているウラジーミル・プーチン大統領が率いるロシア政権の在り方や目指している方向というのは、基本的には変わっていないと思いますので、今日の私の話もまだそれほど古くなっていないのではないかと思います。

プーチン政権はまだ 10 年以上続く

私のモスクワ在任中、2012 年 3 月の大統領選挙で、プーチンは首相から大統領に復帰しました。形式上は三期目になるわけですが、その前の 4 年間はメドベージェフが 대통령、プーチンが首相という形で、いわゆるタンデム政権 (二人乗り政権) と言われていました。この時も実質的な権力はプーチンが握っていたので、プーチン政権は 2000 年から現在までずっと続いていると考えるのが普通です。

従って、プーチン政権は、現在、14 年目に入っているということになります。最初に結論めいたことを言ってしまうと、改正されたロシア憲法に従えば、プーチンは今回の大統領としてはまだ 1 期目なので、あともう 1 期務めることが出来る。1 期 6 年、2 期で 12 年。そのうち 1 年半は過ぎましたが、まだ 10 年以上残っているわけです。次の大統領選挙にまた出るのか、出ないのかといった話はあると思いますが、私は当然出



るだろう、そして当選するだろうと考えています。そういう意味では、プーチン政権とロシアの行方はどうなるか、端的に言っても 10 年以上プーチン政権が続くだろうと私は思います。

「祖国ロシアの防衛」をめざすプーチン

では、プーチンが追い求めているものは何なのか。一言で言ってしまうと、「祖国ロシアの防衛」です。別の言い方をすると、プーチンが目指しているのは「ロシアの富国強兵」であるということもできます。

それを象徴する最近の動きとして、「歴史の教科書を統合しよう」と彼は言い始めています。

プーチンが非常に好んで、あるいは重視している年中行事の一つに、テレビを通じて国民と対話する「テレビ国民対話」(Разговор с Владимиром Путиным) というのがあります。毎年大きなホールに支持者を集めて、会場やテレビを通じて寄せられた質問に、プーチンがおおよそ 4 時間にわたってメモも見ずに答え続けるという、ほとんど信じられないことをやるわけです。このスタイルをプーチンは非常に好んでいて、実際に見ていると、本当に上手なんですね。私の先輩記者はこれを見て、プーチンというのはテレビ政治だと言いましたが、この人ほど政権浮揚というか、権力を維持するためにテレビを上手に使っている人はいないと思います。テレビはプーチン政治の本質を理解する上で非常に重要な道具になっています。

今年 4 月の「テレビ国民対話」でプーチンはこう発言しました。「歴史の問題に対して、いろいろな見解がなぜこんなに多くわが国に存在しているのか。あつちの地方ではこう書いてあり、こつちの地方では別のことが書いてある教科書を使って教育が行われているのはおかしい。一つの統一した歴史認識があつてしかるべきだ」。これをきっかけに歴史教科書を全国で統一しようという動きが始まります。プーチンは祖国ロシアの強化をめざしていると申し上げましたが、これに関わって、プーチンについては「ロシアとは何か」、「ロシア国家はどうあるべきか」という内容を確認する作業を始め

た、そういう制度化を始めたのだと思います。

家として求心力を高めていこうとしているのだと思います。

多民族国家としてのロシア連邦の強化

何故そのようなことが必要なのか。それはロシアが巨大な多民族国家であって、ロシア人だけでなく、いろいろな民族が住んでいる国だからです。独立運動で話題になったチェチェン人、あるいはカルムイク人、中央アジア出身の人たち、ソ連時代にロシアに移ってきたウクライナ人やグルジア人たち、ロシア国籍を持っている人もいれば、そうでない不法移民もいるでしょう。いろんな人たちが混じり合っているのが現在のロシアです。放っておくとバラバラになってしまう。これを統一して、一つの強力な国家としてまとめていかなければならないというのが、プーチンが究極的に目指している方向です。



2012 年 8 月に彼はモルドヴィア共和国を訪れて、モルドヴィアのロシア編入 1000 年記念式典で演説しました。

「ロシアは最初から多民族国家、多様な宗教の国だ。1000 年以上前、スラヴ、フィン、チュルクなど様々な民族が巨大で強い統一された求心力のある国を作り、こんにちバルト海から太平洋にまでまたがる巨大な国家の基礎を築いた。われわれはこれほどに多様だが、われわれが一つにまとまっている時、われわれは『ロシア』なのだ」。

これは非常に重要な発言だと私は思いました。現在、ロシアではさまざまな民族間対立が問題になっています。モスクワにも少数民族が住んでいるコロニーがたくさんあります。彼らはロシア人ではないために、いろいろな制度的条件もあって経済的に貧しく、ロシア人から差別的扱いを受けていると感じています。時に、暴力行為や殺人事件も発生しています。こういう状況を乗り越えて、「われわれはロシア人だ」「ロシア国民としてきちんとやっ페이こう」(ここで『ロシア人』、『ロシア国民』という言葉のニュアンスが日本人にとっては少し難しいのですが、あとで説明します)とプーチンは呼びかけているのです。そうしないと、チェチェン独立問題のようなことがまた起きて、ロシアが国としてまとまっていくことが難しくなる。そこで歴史の教科書を統一して、ロシアとは何か、どうあるべきかということをお子さんの頃から教え、強い国

『ロシア愛国主義』の元祖

プーチン時代になって、よく使われる言葉にパトリアチズム(Патриотизм=愛国主義)があります。ソ連時代には、愛国主義、とくにロシア愛国主義という言葉が使われることはありませんでした。ソ連時代は多民族が共産主義で繋がっているという建前でした。民族間の違いはあっても差別があってはいけないという考え方でしたから、ロシア人がロシア愛国主義というようなことを言うのはタブーだったのです。しかし、共産主義体制が崩れた後に、われわれはロシアの国を愛するという考え方が表面化し、これがいわゆる民族間対立、ロシア人が非ロシア人を差別する動きにつながっているのですが、プーチンは、「自分たちの国であるロシアを愛すべきだ」、「ロシアを愛そう」と公言したロシア初のリーダーです。

エリツィンは共産主義を打ち壊しましたが、彼の時代(1990 年代)にすぐにロシア愛国主義が顕在化することはありませんでした。しかし、市場化、民主化を急激に推し進めた結果、国がバラバラになりそうになった。チェチェン人は武装闘争を始めるし、他の非ロシア人も独立を叫びはじめました。エリツィン時代の末期(1999 年)に ФСБ(ロシア連邦保安局)という KGB の後身組織の長官をやっていたプーチンは、突然、首相に抜擢されました。時期を同じくして、チェチェン人によるといわれるテロ事件がモスクワで多発し、この対策に乗り出したのがプーチンです。彼は翌年の大統領選挙で、エリツィンの後継者＝大統領代行兼首相という肩書で選挙に臨み、四十数歳でいきなりロシアの大統領になります。ロシア政界でまだほとんど知られていなかった彼が権力の階段を駆け上がったきっかけは、まさにチェチェン問題なのです。民族問題への取り組み、いろんな民族をロシア国家として統合していくということは、プーチン政治の原点の一つなんですね。したがって、ロシアを一つの国家として統一していこうという動きは、プーチン大統領第 3 期の政治において、極めて重要な課題だと考えています。

軍近代化による国防力の強化

「強いロシア」をつくるために、プーチンは軍の近代化による国防力の整備と強化にも力を入れています。プーチンの目標は、ソ連崩壊によって著しく低下した軍事力の回復です。現在、徴兵中心で定員百万人を超えるロシア軍ですが、この人数を減らし、志願制中心のコンパクトで機動力のある職業軍人集団に作り替えるために、ロシア軍の改革を進めようとしています。すでに 2020 年までに「総員は 85 万人、装備は潜水艦 20 隻、戦闘機 600 機、ヘリ 1000 機、艦船 100 隻を実戦配備する」という計画が立てられています。軍の改革にはいろいろと抵抗もありますが、これはやるでしょう。

軍の改革と近代化は非常に重要な課題の一つです。

ロシア経済の発展と強化

もう一つ、「強いロシアの復活」の諸政策を支える基礎として、ロシア経済の発展と強化が不可欠です。

プーチンが1期目と2期目(2000年～2007年)にきわめて高い支持率を保ったのは、ロシア経済が好調だったからであるとよく語られます。15年くらい前に1バレル=15～20ドル程度だった原油価格は、今や1バレル=100ドルを超える高さになっています。まさにプーチンの任期中に原油価格は上昇の一途をたどり、石油を輸出するロシアに莫大な収入が入り、税収が伸びて国家財政が潤いました。石油輸出税を原資に巨大な準備基金ができて、ロシアはいわゆるバブル景気に沸きました。人々の給料もバンバン上がった。私が一回目の特派員としてモスクワで生活していた2005年ごろ、周辺のロシア人たちの給料がどんどん上がっていったことをよく覚えています。当然のことながら物価もどんどん上がっていったのですが、ロシア人たちはあまり気にせずに、給料の上昇を喜んでいたというか、浮かれていたという感じです。

プーチンのこれまでの経済政策は、エネルギー輸出で経済を底上げして、税収を確保する。さらに国営企業を統合し、効率的に運用して、自国の製造業を保護育成するということでした。一度はだめになった国産の自動車工場をかなり支援して、立ち直らせようとしたりもしました。

しかし、2008年のリーマンショックで、貯め込んだ準備基金は一気に底をついてしまいました。これがなかったらもっと大変なことになっていたと慰められているのですが、一生懸命に貯めた基金がリーマンショックというアメリカ発の経済危機でおじゃんになった。「アメリカというのはとんでもない国だ」とプーチンは激怒していましたが、その気持ちも分からないではありません。そういうことで、経済の立て直しはさほど捗っていないわけですが、いずれにせよ経済成長を続けないと国民の生活は良くならないし、税収も増えない。国防力を強化するために装備の近代化もできない。資源エネルギー輸出に依存した経済から転換し、製造業の技術革新を進めて経済を近代化していくことは、ロシアという国を強くする上で非常に重要なファクターであるわけです。

プーチン再選直後の2012年3月、ペスコフ報道官は「プーチン1期目は病気の治療、2期目はリハビリ期間だった。3期目で国の身体と精神の発展の時期が始まる」と言っています。ですから、プーチン政治の重要な柱の一つは経済を良くするということであって、プーチンの外遊先は、必ずと言っていいほど経済協力が見込める国が選ばれています。今年になって安倍総理が何回かプーチンと会談して経済協力を進める話をしていますが、これまで日ロ間にはやっぱり領土問題があって、経済協力だけ先に進めると「食い逃



げ」されるのではないかと
いう懸念から、やや日本
側の腰が引けていた。プ
ーチンがあまり訪日に熱
心ではなかったのは、そ
ういう要素もあるのでは
ないかと思います。アメ
リカとの関係もそうですね。
米ロ間の経済関係はあ
まり強くあ

りません。アメリカとの貿易がもっと多額であれば、プーチンの対米姿勢は今よりかなり違うのではないかという気がします。ここでもやはり、プーチンは実利というか、経済的な利益が見込めないとそこにはあまり関心を持たないという面が表れていると思います。

ウラジーミル・プーチンとはどういう人か

1人の人間が13年間もトップリーダーを務めていて、あと10年はそれが続きそうだということになると、その国の政治を理解するためには、そのリーダーがどういう人なのかということを実際に考えなければならない。「プーチンとはどういう人なのか」。私だけではなく、モスクワ駐在の特派員は皆それを考えているわけです。

プーチンが目指しているものは、すでに述べた通り、ロシアの防衛であり「強いロシア」の確立ですが、では、なぜ彼はそういう発想をするのか。

プーチン自身は戦後生まれですが、両親が経験した第二次世界大戦＝独ソ戦争がこの人の根本的な思考を規定していると思われます。プーチンは第二次大戦と東西冷戦という二つの戦争に非常に大きな影響を受けているわけですが、やはり独ソ戦の方が、プーチンだけではなく、ロシア社会そのものにいまだ重大な影響を与えており、その影響力は冷戦の比ではないと思います。彼の思考は「二度と他国からの侵略を許してはならない」という強い信念に貫かれています。

「二度と他国からの侵略を許してはならない」

独ソ戦について、ここで詳しくは申し上げません。スターリンは1939年8月に独ソ不可侵条約を結び、ドイツは攻めてくるはずがないと過信していました。ところが1941年6月ヒトラーは突然ソ連に攻め込み、あと少しでモスクワを陥落させるところまで迫りました。いわゆる「電撃作戦」です。プーチンの両親が住んでいたレニングラード、現在のサンクトペテルブルグは2年半、1941年9月から44年1月まで900日にわたってナチスドイツに包囲されました。いわゆる兵糧攻めで、食料が来ない。援軍も来ない。289万人の市民のうち65万人以上が亡くなった。死者の大部分は餓死です。レニングラードの街中では、冬に遺体をソリに乗せて運んで行

く光景が連日見られたと言われています。



写真は、レニングラードのピスカリョフスコエ墓地の前に建っているモニュメントです。この先に広い墓地があり、49 万人が埋葬されています。すごく広い墓地ですが、1 人 1 人埋葬する余裕はありません。大きな穴を掘って死亡者をどんどん埋めていった。誰が埋葬されたか記録がとれなかったので、石で作った共通の墓標が置かれています。もちろん名前なんて書いてない。1942 年とか 1943 年としか書いてない。死亡年だけを記した墓標がたくさん並んでいます。これを見ると、ロシア人でない私も、非常に厳粛な気持ちにさせられます。1 月 27 日が封鎖から解放された日なのですが、プーチンは毎年のようにここに花を捧げています。2 年前に来た時に、「実は自分の兄がここ埋葬されている」ということを初めて言いました。

プーチンには二人の兄がいたのですが、一番上の兄さんは生まれてまもなく亡くなった。これは戦争とは関係ありません。二番目の兄は独ソ戦の最中にジフテリアで亡くなった。実はどこに埋葬されているのか分からない。「子どもは食料を与えて守ってやる」と当局に言われて、自分たちの食べ物もないので仕方なく子供を引き渡したのですが、亡くなったことを両親は後で聞いたということです。父ウラジーミルと母マリヤはかろうじて生き延びました。戦後、3 人目の子供として生んだのがウラジーミル・プーチンです。マリヤさんはもう 41 歳。当時としては非常に遅い出産だったわけですが、二人にとっては成長した唯一の子供ということになります。

ロシア正教の熱心な信者

写真は、サンクトペテルブルグのセラフィモフスコエ・クラードヴィシエ (Серафимовское кладбище) という所にあるプーチンの両親の墓です。お父さんは 1999 年 8 月、プーチンが首相になるかならないかという時期に亡くなりました。



その 1 年前にお母さんも亡くなっています。ソ連時代に作られた墓は無宗教的なものが多かったのですが、プーチンはキリスト教信仰が篤い人なので、このような十字架のお墓が建っています。Господи Да Будет Воля Твоя (神よ、あなたの心のままに) という言葉が刻まれています。これはロシア正教の信者がよく使う言葉なのですが、これほど宗教的な墓標はちょっと珍しいのではないかと思います。この写真を見せたわけは、プーチンはロシア正教の熱心な信者だということになっているのですが、それは一種の偽装ではないかという人もいます。しかし、私は全くそう思いません。両親の墓を見ても、プーチンは本当にロシア正教を信じているという感じですね。それどころか、プーチンは自分の政治活動や政権運営を、神に与えられた使命を遂行しているというふうに感じているのではないかという意見が少なくありません。私も、多分そうなのではないかと理解しています。

お父さんのウラジーミルさんは熱心な共産党員で、独ソ戦で負傷した経歴の持ち主ですが、そのお父さんの目を盗んで、お母さんのマリヤさんが幼いウラジーミル・プーチンを近くの教会に連れて行き洗礼を受けさせた。プーチンが KGB を辞めてイスラエルに出張する時に、母親から渡された十字架を身につけて聖地に行った。「それ以来、自分は一度も十字架を外したことがない」と彼は語っています。これは、最初の大統領選挙の前に出版されたインタビュー集『プーチン、自らを語る』という本に書いてあるエピソードです。プーチンは、「神が」、「神様が」という話を非常によくする人で、おそらく本気で信じているのだと思います。ロシア正教では、モスクワは第三のローマだと言われるのですが、ローマ帝国とビザンティン帝国が滅びたあと、キリスト教の正しい教えを受け継いでいるのは今やロシアだけだという自負がこめられています。そのロシアを外敵から守るのが、プーチンの目指しているところなのではないかと私は思います。

Русские = ロシア人と Россиянин = ロシア国民

ロシア正教はロシア国家の精神的支柱であると考えるプーチンは古い価値観の体現者であると言えます。ただし、プーチンはロシア人だけを特別視しない。ロシア連邦を構成する諸民族が融合してこそロシアは強い大国でいることができると考えています。

先ほど話をした「ロシア人」と「ロシア国民」という言葉ですが、ロシア語の基礎知識のある人ならご存じのとおり、Русские というのは「ロシア人」です。これはいわゆる民族的なロシア人という意味ですが、最近は Россиянин という言葉がよく使われるようになっていきます。これは、ロシア国民とかロシア市民という意味で使われているんですね。世界最大のガス企業であるガスプロムは、いわゆる政府企業ですが、その CM が毎日テレビで流されています。Мы Россиянин! = 我々はロシア人だ! この Россиянин とい

うのは、民族的には、ロシア人、チェチェン人、グルジア人、ユダヤ人、いろいろな民族がいるけれど、**Россиянин**=ロシア国民として一つにまとまっていこうよという意味合いで使われています。そして、まさしくこれがプーチンの考えていることなんですね。

改革の必要性を理解している保守主義者

プーチンは、非常に保守的な人だと見られています。実際、保守的な人なのかもしれませんが、しかし、改革が必要だということも理解しています。プーチンに大きな影響を与えた二つの戦争のうち、ロシアは第二次大戦には勝利しましたが、東西冷戦には敗れたわけです。彼は、東ドイツのドレスデンでベルリンの壁崩壊を迎えるのですが、その時、東ドイツ市民が彼らを抑圧してきた秘密警察(シュタージ)に対して反乱をおこします。シュタージと協力していた **KGB** の駐留事務所にも、市民集団が押し寄せてきた。ソ連軍の出動を要請したけれども、「モスクワの許可がないと動けない」と言って断られた。これでソ連は終わりだと感じたというのがプーチンの原体験です。こういう体験のあと **KGB** を辞めた人なので、「共産主義というのはどうしようもない」という激しい反共産党感情ではエリツィンと共通している。プーチンは、共産主義に対しては非常に冷たいというか厳しい態度を取っています。

反共産党だから改革者であるというわけではありませんが、彼が発表している論文や、あるいは毎年議会に行う年次教書演説を聞いていると、「個人のイニシアチブや民主主義、自由な発想のない制度には未来はない」とはっきり言っています。これは単なるお題目だとは私は思いません。おそらく、本人は改革の必要性を理解してるのでしょうか、周りが動かないという面があるのでしょうか。ただし、周囲の人々は、当然、プーチンが何を言っているか、何を考えているのか、何を好み、何を好まないかということをよく見ながらやっているはずなので、プーチンが改革が必要だと言いつつも実は保守的な価値観の持ち主であることはよく分かっており、それに合わせて行動しているのだらうという気がします。

22 年前にロシアは共産主義から民主主義の方向に大きく転換したわけですが、では新しい民主主義制度が根づいているかという、なかなかうまくいかない。そういう過渡期にある国をプーチンは率いている。そういう意味で、指導者であるプーチンという人も、古いものと新しいものの矛盾を抱えているということなのだろうと私は理解しています。

プーチンとメドベージェフの世代間格差

プーチンはインターネットをまったくやらない。携帯電話も持たない人です。演説草稿でもパソコンを使うことすらしない。最初から自分で手書きするわけではないのですが、担当者が作った草稿を読んで、赤ペンを入れているそうで

す。その字が読みにくいので、タイピストたちが清書するのに大変苦労している。そういう人です。

これに対して、メドベージェフはインターネット大好きで、 아이폰 持って、ツイッターにいろいろな発信をする。ポップな現代っ子です。そういうメドベージェフとはある意味で全くそりが合わないところがあるのでしょうか。タンデムの時期、メドベージェフが 2 期目をやるのか、あるいはプーチンが復帰するのかという話は、2 年くらい前からずっと言われてたのですが、メドベージェフが最終的に再選を許してもらえなかったのは、2 人のジェネレーションギャップが連動しているのではないかと思います。しかし、本質的な点で言うと、安全保障に対する考え方が、プーチンに比べてメドベージェフはちょっと薄い。これが一番のネックになったのだと思いますが、それはやっぱり体験の違いです。独ソ戦を経験した両親から戦争の話を聞いて育ったプーチンと、彼より 13 年若いメドベージェフとでは、国家観が違います。メドベージェフは、ビートルズやディープパープルといった西側の文化を経験して育っています。彼がまだ大学にいた時にゴルバチョフのペレストロイカが始まった。メドベージェフはどちらかというと西側的な欧米的な民主主義、自由主義が良いと考えている。プーチンはそこまでは理解できない。西側諸国は、民主主義の美名のもとにロシアのおいしいところをかすめ盗ろうとしているのではないかと警戒している。ロシアの諺で言えば、「信じよ、ただし検証を怠るな」です。

そういう違いがあって、二人は最近やや疎遠になっています。メドベージェフが再度、大統領に推される可能性は、私の意見ではもはや無いと思います。

ロシア外交の基本=国連中心主義

この写真は、プーチンが大統領に復帰した 2012 年の対



独戦勝記念日 (5 月 9 日) に撮影したものです。写真の一番右側にいるのがセルジュコフ国防大臣(当時)です。テレビでもよく紹介される赤

の広場での軍事パレードを閲兵しているところです。

これがロシア外交とどう繋がるのか。

ロシア外交の基本は国連中心主義です。これはソ連時代と基本的に変わっていません。どういう意味なのかと言うと、やはりロシアは第二次世界大戦の戦勝国なのです。国連安全保障理事会の常任理事国(=Permanent Five)の一角を占め、拒否権を持っている。つまり安全保障理事会で決議しようとしても、ロシアが **NO!** と言えば絶対できない。そう

いう権限を握っている 5 つの国の 1 つだということです。

ロシア(当時はソ連)は、独ソ戦、第二次世界大戦で 2700 万人の国民を失いました。当時、ソ連全体で人口が 2 億人いなかったことを考えると、8 人に 1 人ないし 7 人に 1 人が戦争で死んだということです。10 人のうち 3 人は帰ってこなかった。これは想像を絶する被害です。この膨大な犠牲を払って勝ち得た戦後の安全保障の枠組みが国連なのです。その中で、ロシア(ソ連)は英米仏中国とともに常任理事国になった。「No!」と言えば国連は絶対動かない、そういう地位を確保した。多大な犠牲を払ったわれわれには国際政治の安全保障面で発言権があって当然だというのが、ロシアの外交思想の基本になっているわけです。

以下は、2012 年 5 月 9 日の戦勝記念日でのプーチン演説の一節です。

Россия последовательно проводит политику по укреплению безопасности в мире. И у нас есть великое моральное право – принципиально и настойчиво отстаивать свои позиции, потому что именно наша страна приняла на себя главный удар нацизма, встретила его героическим сопротивлением, прошла через тяжелейшие испытания, определила сам исход той войны, сокрушила врага и принесла освобождение народам всего мира. В этой победе и мощная опора для молодых поколений, которые должны знать и помнить, что они – наследники победителей, истинных солдат свободы.

(訳) ロシアは一貫して世界の安全保障強化のための政策を実行してきた。われわれは自身の原則的な立場を屈することなく主張する倫理的権利がある。なぜならわが国こそ、ナチズムの主要な攻撃を自ら受け止め、英雄的に抵抗し、最も厳しい試練に耐えてこの戦争を終わらせ、敵を粉砕し、世界の諸民族に解放をもたらしたからだ。若い世代は、彼らが勝利者の、真の意味での「自由の戦士」の後継世代であることを知らなければならない。

これがプーチン復帰後最初の演説です。メドベージェフも大統領として 4 回戦勝記念日に発言しているのですが、やはりプーチンが演説すると迫力が違います。場が引き締まります。私はロシア人ではないので、傍観者としての観察が当たっているかどうかはわかりませんが、おそらく多くのロシア人、とくに保守的な人たちは同じように思ったのではないのでしょうか。いわゆる旧来からの価値観を守っていこう、大事にしようという態度はプーチンの言動に色濃く表れており、その点が、いろいろな問題がありながらもこの人が 60 パーセント以上の支持を得ている源泉なのだろうと思います。そういう意味で、今後もプーチンの統治が簡単に終わること

はないだろうという気がします。



戦勝記念日(5月9日)は重要な国家行事

戦勝記念日には、独ソ戦に参加した Ветеран(ベテラン)＝元兵士に、若い人が「おじいちゃん、おばあちゃん、勝利をありがとう」と言って花を渡す習慣があります(写真)。モスクワのボリショイ劇場の周りなどあちこちに従軍経験者が集まって集会をやる。そこに若い人や小さな子供たちが来て花を渡す。これが年中行事になっています。日本は戦争に負けたので、このような祝賀行事を目の当たりにすると複雑な思いにとらわれるのですが、ロシアで取材をしていると、この日は本当に感動的な一日であるわけです。

ある日突然、ドイツ軍が電撃侵攻し、あっという間にモスクワ近くまで攻め込んできた。モスクワのシェレメーチェヴォ空港の近くにヒムキという場所があります。その辺りまでドイツ軍の戦車が来て、あと 2、3 日でモスクワ占領かという状態にまで追い込まれた。それを必死で押し返して反撃し、最後はベルリンの国会議事堂に赤旗を立てるところまで行くわけですが、先ほど紹介したプーチンの演説通り、そういう莫大な犠牲を払ってわれわれはナチズムからヨーロッパと世界を解放したのだという、一種厳粛な空気がこの日は人々を包みます。ソ連時代は国家の一番重要な行事は 11 月 7 日の革命記念日のパレードでしたが、今は 5 月 9 日の戦勝記念日のパレードがロシアでもっとも重要な国家行事になっています。

それは一つには、すでに述べたように、国内の様々な民族を一つのロシア国民にまとめるものとして意識されています。ロシア人だとか、ユダヤ人だとか、チェチェン人だとか、民族の違いは脇に置いて、「ロシアとして一緒に戦ったではないか」、「モスクワ陥落の危機からロシアが一体となって立ち直ったではないか」、戦争に勝利した記憶によって多民族国家をまとめていこうという政権の考え方が透けて見えます。同時に、もう一つ、連合国として戦い勝利した歴史的事実は、国際社会でのロシアの外交的立場を確認する基礎と

なっているのです。

主権国家に対する軍事介入、干渉は許さない

シリア問題で、プーチンは頑として軍事介入に反対しました。シリアのアサド政権は自国民を虐殺しているじゃないか、虐殺を止めさせるために武力介入すべきだと主張するアメリカを押しとどめ、最後はサンクトペテルブルグで開かれた G20 (主要 20 カ国会議) でオバマ大統領を説得して、化学兵器の国際的管理と廃棄の枠組みを提示して同意を取り付け、軍事介入を回避しました。

何故、プーチンは武力行使にここまで反対したのか。

まさにロシア (ソ連) は突然ドイツに攻められて負けそうになった。それがプーチン政治の原点です。アメリカの暴走を許せば、アメリカが気に入らない国はすべてレジームチェンジ (政治体制の転換) の対象にされてしまう。主権国家に対する武力行使は、国連安全保障理事会で合意され決議された場合のみに限定すべきだ。この原則を崩されると、ロシアが多大な犠牲を払って実現した戦後の国際秩序の根底が崩される。それは許されない。これがプーチンの考えなのです。したがって、今後も、主権国家に対する武力介入や内政干渉は許さない。ロシアにはロシアの独自の発展の道があるというのがプーチンの一貫した姿勢であって、これからもこの考えは貫かれていくだろうと思います。

日ロ関係～プーチンが発するシグナル

日ロ関係について言うと、このようなプーチンの考え方からすれば、領土問題でロシアが日本に譲歩するのは非常に難しいだろうと思います。第二次世界大戦の結果として確定した現在の国際秩序を、今になって「それはおかしいじゃないか」と言われたならば、それはイエスと言えない。しかも日本は敗戦国なのです。ロシア (ソ連) を侵略したナチスドイツと同盟して、東から軍事的に牽制しつつけていたのが満州国境に展開した日本軍です。日本側の理屈としては、中立条約が一方的に破られたということがありますが、ロシア側からすれば、当時の日本はナチスドイツと手を組む全体主義国家であり、侵略国家であったわけです。その日本が戦争に負け、領土を失った。それは日本側の問題であって、戦勝国であるわれわれは何ら譲歩する必要は無いというのがロシアの基本的な姿勢です。

ただし、プーチン自身は黒帯を持つ柔道家であり、日本に非常に理解のある人です。柔道は単なるスポーツではなくて哲学だと言ってる人ですし、二人のお嬢さんのうち下の娘さんは中国語と日本語を学んでいると聞いています。13 年 4 月に安倍総理が訪ロした時にも、日本人記者の質問にプーチンは少し怒って答えていましたけれども、「われわれは本当に日本との関係を良くしたいと思っているんだ」と、何度も何度も繰り返しています。これは本当にそうなん

だろうと思います。

ただ、彼の発想としては、ロシアが多大な犠牲を払った正義の戦争の結果として確定したものを返せということであれば、何か理由が必要だ。そうでなければ国民は納得しない。1956 年の日ソ共同宣言に書いてある合意＝平和条約締結後に二つの島を引き渡すという合意は国際合意であって、条約として批准されているものなので、これはやむを得ない。それ以上は無理だというのがプーチンの真意だと私は思います。もう一つ裏を読むと、彼は日本に対して経済関係を拡大しようと繰り返し呼びかけています。ロシア経済を良くし発展させることは、政権にとって極めて重要な課題です。これは国防にも関係しています。つまり、経済を良くしてロシアの安全保障の強化に協力してくれる国となれば取引ができるというのがプーチンの心理だろうと思うのです。経済協力を進めて、日本との関係がさらに良くなり、ロシア人の生活が向上してロシアの国力が上がる。「日本人はこんなにロシアに貢献してくれているではないか」と国民に分かる形で示すことができれば、返してくれと言っている小さい島を全てとは言わないまでも、二島だけでなくプラスアルファをもう少し考えてもいい。このような問いかけをプーチンはしようとしているのではないかと。「経済協力を」とプーチンが繰り返す裏にはそういうシグナルがあると思います。

そういうことを踏まえた上で、経済協力を進めていくのか、あるいは「食い逃げ」を警戒して協力を控えるのか、日本側はよく考えなくてはならないと思います。

《質疑》

— 現在、ロシアは中国との関係をどのように考えていますか。よく戦略的パートナーシップという言葉が使われますが、これはどう解釈したらいいでしょうか。

佐藤 ロシアが中国をどう見ているか。これは少し複雑な面があります。プーチンがどう考えているのかというと、かなりプラグマティックなのではないかと思います。長い国境を接しているので、中国は無視できない存在です。ロシアから石油や天然ガスを買ってくれる貿易上の非常に大きなパートナーです。ロシアにとって中国との関係が極めて重要であることは論を待ちませんし、中国と事を構える気は全くないと思います。ただし、ロシアが中国を全面的に信頼しているかという疑問です。協力できることは協力するけれど、できないところはしないという実利的なアプローチが基本ではないかと私は思います。

ロシアが中国と組んで、いわゆる対日包囲網を作るのではないかという話がありましたが、私はそんなことはないという気がします。声明とか共同宣言の言葉の端々をとらえて、ロシアが中国と組んで日本に何か仕掛けてこうとしているなどというのは考えすぎではないかと思います。

ロシアと中国の戦略的パートナーシップですが、

стратегическое партнёрство という言葉がよく使われます。そもそも戦略的パートナーシップという言葉は、安全保障観を共有しているという前提がないと使わないというのがロシア外交の基本です。その意味で、領土問題を抱えており、アメリカと軍事同盟を結んでいる日本は、ロシアにとって戦略的パートナーとは呼べません。中国はロシアの戦略的パートナーです。これはやはり、国連安全保障理事会でロシアと中国が常任理事国の一角を占めており、とくに米英仏の 3 カ国と、リビア問題とかシリア問題とかで対立することが多いわけです。アメリカ主導の民主主義的自由主義的価値観にもとづく紛争国への介入政策に対する歯止めとして、拒否権をともに行使し、互いに孤立しない形を作るという意味で、中国はロシアにとって外交的に極めて重要なパートナーです。しかも経済関係も良好ですから、そういう意味で戦略的パートナーシップということなのだと思います。

ただし、今後、中国がますます経済成長を続けてロシアとの差が開いていくことは明らかです。ロシア側は、中国がどれくらい経済を拡大するのか、軍事力をどのくらい強化していくのか、国際社会でどの程度自分の意思で行動しようとするのか、といった点を注視しているはずですが。今後も戦略的パートナーシップという言葉が、ロシアと中国の間で真の意味で使われ続けるのかどうかという疑問があります。これはなかなか面白いテーマで、今後も注目していきたいと思っています。

— プーチン政権の第 2 期体制は、いわゆるシロヴィキ (силовики) とシビリキ (Civiliiki) のバランスの上に統治システムが作られている。ところが現在、シロヴィキ派がどんどん力を弱めて、プーチンの統治体制が崩れてきており、彼はクレムリン内で孤立化しているという見方があるのですが、どう思われますか。実態としてプーチンの権力は以前と比べて弱まりつつあるのでしょうか。

佐藤 現在のプーチン政権で、いわゆるシロヴィキと呼ばれるパワー・ミニストリー (power ministry) 出身者たちが凋落しているのではないかという意見ですが、私はそうは思いません。その象徴的出来事は、プーチン再選直前に KGB 時代の同僚であるセルゲイ・イワノフ (Сергей Иванов) が大統領府長官に就任した事実です。この人はシロヴィキの代表的な人物ですが、彼はプーチンが最初の二期大統領を務めたあと、メドベージェフと後継者争いをして敗れました。メドベージェフ大統領の下で副首相を務めていたのですが、ほとんど誰も注目しない人になっていました。ある時、イワノフ副首相の記者会見に出席したところ、かなり広い会場に記者が 10 人程度しか来ていなかったことを覚えています。こんなに凋落するものかなあと思ったのですが、その彼が権力中枢に返り咲いて、今では政権の方向性を明確に代弁する発言をしている。なぜイワノフを政権に残したのかについてはいろいろな見方がありますが、私は、

プーチンは自分にもし万が一のことがあった時に自分の路線を継続させるために彼を大統領府長官にしたのだと思います。ロシア憲法では、大統領にもしものことがあった場合の大統領代行は首相になると規定されているので、形の上ではメドベージェフ首相がナンバー 2 になります。しかし、すでに話した通り、プーチン大統領とメドベージェフ首相との間には確執がある。2012 年の大統領選で、再出馬の意欲を示すメドベージェフを抑えてプーチンが復帰したということは、その過程でメドベージェフには大統領になる資格は無いと判断されたことを意味します。自分に万一のことがあった時にどうするかということをプーチンは常に考えているはずですが。首相であるメドベージェフが一時的に大統領代行になることはあっても、その後の大統領選挙で必ず当選するとは限りません。大統領府長官であるイワノフが出馬してもいいわけです。すでに報道されているように、メドベージェフの影響力はどんどん下がっています。今ではイワノフの方が政権内で大きな力を持つようになっています。

シロヴィキの代表格としては、もう一人、イーゴリ・セーチン (Игорь Сечин) がいます。彼はロスネフチ社というロシア国営石油会社の会長です。国家財政に直結する重要部分を彼が握っているわけです。やはり自分の同僚だった KGB 出身者たちを要所に配置して、要所を締めっていくというプーチン体制は基本的に変わっていないのではないかと私は思います。

— ロシアと旧ソ連諸国 (CIS) との関係はどうなっていますか

佐藤 旧ソ連諸国との関係では、プーチンは「ユーラシア同盟」というものを提唱をしています。これは大統領に復帰する際の政権公約の一つだったのですが、人によっては「ソ連の復活だ」という見方もあります。しかし、私はソ連の復活ではないと思います。地理的にも経済的にも関係が強い旧ソ連諸国がまとまって行動する方が効率的だというのは、とくに経済面では説得力があります。EU (欧州連合) をはじめとして経済のブロック化が進んでいるもとで、これに対抗していくために、旧ソ連諸国で少なくとも関税の撤廃など貿易、経済面で協力しあった方が得策である。プーチンの構想では、ユーラシア同盟の前にユーラシア経済同盟を作り、協力関係の進展とともに政治面でも協力を進化させて、これを政治同盟に発展させるということになっています。ソ連崩壊によって一国一城の主になった各共和国の指導者たちは、やはりもう一度ロシアという兄貴分に統率されることを嫌っています。関税を撤廃する程度であれば賛成する国もなくはないのですが、ユーラシア同盟はあまり進んでいないというのが実態です。そして、これからも多分あまりうまくいかないのではないかと思います。

— 日本の対ロシア姿勢はどういうふうにすべきでしょうか

佐藤 領土問題を念頭においた質問だろうと思いますが、私は民間人なので率直に言わせていただきますと、日本政府の対ロシア政策は最近までかなり硬直していたと思います。「政経不可分」の名のもとに、領土交渉が進まない限り経済協力に深く踏み込まないという考え方で、それを言い続けてもう 60 年近く経っているわけです。このままでいいのかどうか、もう少し考えた方がいいですね。

突き詰めると、「四つの島全部返してくれなければ信用しない」というのが日本側の考え方です。問題発生後しばらくはそれでもいいですが、人はどんどん年を取っていくわけです。プーチンの次に誰がロシアのリーダーになるのか、今のところ全く分かりません。プーチンほど日本を理解しようとしている人はロシアの政治家の中にいない。ここは一つ、むこうが送ってきているシグナルをきちんと受け止めて、それに乗ってみてもいいんじゃないか。これは、私が無責任な立場にいるから言えるわけですが、何もやらなければ動きません。むこうは「ボールは日本側のコートにある」と言っているわけですから、こちらが動かなければ、むこうも動かない。動かなければ、チャンスと時間をますます失っていくことになると思います。

— ロシア語留学について

佐藤 今日呼んでいただいたのは、JIC のお世話でモスクワに留学させていただいた縁からなので、最後に一言だけ、語学留学について言わせていただきます。

留学を有意義に過ごすにはどうすればいいのか。経験から言わせていただくと、とにかく目的を明確にすることが大事だと思います。ロシア語の基礎知識を身につけるために学ぶのは当然ですが、ロシア語が話せるようになるためには、語学力よりもまず話したい中身があるかどうか、相手に伝えたいことがあるかどうか、相手から聞きたいことがあるかどうか、いわゆるコンテンツがあるかどうかということの方が重要です。中身がなければ、いくら語学ができて話ができても。自分は何が言いたいのか、何が聞きたいのか。自分の意見や考えを整理して、それをロシア語で話すにはどうすればいいのかということを常に念頭に置いて勉強していただきたいと思います。

それから、マスメディアを最大限に活用してください。テレビを見る。ラジオを聴く。毎日、新聞を読む。これは非常に役に立ちます。聞き取り、会話、読解の力がつきます。

ロシアはバレエや音楽、美術などの深い文化的伝統を持つ国です。ロシアに留学するのでしたら、ロシア人が持っている文化的素養というものを味わっていただきたい。ロシアとロシア国民への理解を深めるうえで、言葉とともに文化を理解することが必須だと思います。せっかくの機会なので、有意義な留学をされることを期待しています。

ありがとうございました。

本 冊 紹 介

ロシア文化の方舟

～ソ連崩壊から 20 年

野中進・三浦清美・V グレチュコ・井上まどか編
東洋書店／定価 3200 円＋税

ロシア語・英語通訳の小原信利さんから年末に一冊の本が送られてきた。パラパラと拾い読みしてみると、これが結構面白い。ついつい引き込まれて、あちこち読み漁った。

「本書は、1991 年のソ連崩壊から 20 年たった今日のロシア文化に関して興味深いことがらや人物を紹介しようとするものである。たんなる『現代ロシア文化ウォッチング』にとどまらず、ソ連時代や帝政ロシア時代、さらに中世ロシアとの対比を行うことで、『ロシア文化の厚さと深み』を描き出すことをめざしている。ソ連時代とくらべてどう変わったのか、どれくらい『伝統的なロシア』に回帰しているのか、新しい流れは生れているのか、こうした問いに文化史の観点から答えることが本書の課題である。キャッチフレーズ的に言うと、『読んで面白い、引いて役に立つ文化ハンドブック』だ。」(本書「まえがき」より)

本書の狙いと特徴はすべてこの「まえがき」に言い表されている。あとは読者に読んで味わってもらえないのだが、それでは紹介子の任を果たせないのも、もう少し内容を紹介しておこう。まずは本書で取り上げられているテーマだが、現代ロシア建築、政治と笑い、食文化、ダーチャ(田園生活)、旅行、呪術リバイバル、ソルジェニーツィン、ロシア文学、女性作家、文化学、ソヴィエト・アニメ、テレビドラマ、恋愛小説、現代アート、ロシアン・ジャズ、ロックとポップス、実験演劇、戦争の記憶と英雄、指導者たち、聖人たち、多宗教国家、「ガストアルバイター」、チェチェン戦争、民警、外国に住むロシア人、移民作家、写真家、極東の隣人たち、…と実に多岐にわたっている。これらが 36 項目 8 章に分けて論じられているので、興味のある項目を選んでどこから読んでも面白い。

私個人としては、ロシアのアイデンティティを模索するなかで生まれてきた新しい学問分野である『文化学』を取り上げた野中進氏の「文化学—国民アイデンティティを組み換える」、ソ連崩壊後、ドイツ、アメリカ、イギリス、イスラエルなど各国にできたロシア系住民コロニーを紹介するヴァレリー・グレチュコ氏の「ロシアはいくつある?—外国に住むロシア人たち」、そしてロシア国内で最近とみに増えつつある「ガストアルバイター」(移民労働者)と移民排斥を生むロシアの住民登録制度を論じた堀江広行氏の「上京者の『理想』」などの諸論考に大いに関心をそそられた。

ソ連崩壊後の20年間、「ロシアとは何か?」「ロシア人とはいかなる国民なのか?」ということが繰り返し問い直されてきた。簡単な答えは見つからないが、この20年間に変化を遂げたロシア社会とロシア文化の現実そのものが、問いを解くカギと、そして新たな問いの出現を準備しつつあるように思える。ロシアに関心を持つ人に、是非、手に取っていただきたい1冊である。(2014.03.01/伏田)

本の紹介

ロシアの暮らしの中の かわいい民芸

小我野明子著/定価;1800円+税)
(株)パイインターナショナル発行



ジェーアイシー旅行センターの10年来のリピーターさんにして、ロシア民芸品の愛好家、フリーライターの小我野明子さんが、新しい本を出版しました。

本書で紹介されている民芸品は、マトリョーシカ(入れ子人形)をはじめ、ベレスタ(白樺の皮細工)、ホフロマ(赤、黒、金で装飾された木の食器)、パレフ(細密画を描いた紙の漆器)、ジョストボ(手書きの彩色トレイ)、ボゴロドスコエの玩具(木彫りおもちゃ)、粘土人形、グジェリ(白と青の陶器)、ロモノーソフ(陶磁器)、マイオリカ(色彩豊かなセラミック人形)、刺しゅう、パッチワーク、ニット、プラトーク(伝統的スカーフ)、アイボリー彫刻、フィニフティ(エナメル加工の細密画ジュエリー)、琥珀、とロシアの民芸品のほとんどが網羅されています。ロシアと数十年間もつきあいながら、民芸品といえ、マトリョーシカ人形、グジェリ焼き、琥珀くらいにしか関心がなかった私にとっては、このレパートリーの多さは新鮮な驚きでした。

それぞれ簡潔な説明と綺麗な写真がついて、ロシアのか



わい世界をのぞき見る感覚で楽しく読み進めることができます。本文の合間にはさみこまれた9本のコラム、そして「民芸品をもっと楽しむおすすめスポット」として挙げられている7つの

博物館等の紹介記事を読むと、「よし! 一回、ロシアのかわいい民芸の旅に出かけてみるか」という気が湧き起こるのはあなただけではないでしょう。「ロシアの“かわいい旅”をコーディネートしてくれたジェーアイシー旅行センター」と巻末に宣伝までいれてくれた小我野さん、ありがとうございます!。最後に、本書で紹介されているロシアの「おすすめスポット」と「日本でロシア雑貨が購入できるお店」を列挙しておきます。

民芸品をもっと楽しむおすすめスポット

ロシア民俗学博物館(サンクトペテルブルグ)

⇒ www.ethnomuseum.ru

セルギエフ・ポサード文化財保護博物館

⇒ www.musobl.divo.ru

ベルニサージュ(民芸品マーケット/モスクワ)

⇒ www.moscow-vernissage.com

マールイ・カレリ(野外民家博物館/アルハンゲリスク)

⇒ www.korely.ru

グジェリ ミュージアム(モスクワ郊外)⇒ www.gzhel.ru

インペリアルポーセレン ファクトリーミュージアム(サンクトペテルブルグ)⇒ www.ipm.ru

ロシア美術館(ペテルブルグ)⇒ www.rusmuseum.ru

日本国内でロシア雑貨が購入できるお店

いりえのほとり(神戸市)⇒ <http://www.irie-hotori.com>

GINZA HAKKO 木の香(東京・銀座)

⇒ <http://kinoka.woodburning.jp>

マールイ・ミール(奈良市)⇒ <http://mmnara.web.fc2.com>

ロシア雑貨店パルク(東京・阿佐ヶ谷)

⇒ <http://russianzakkapark.blogspot.jp>

リャビーナ(名古屋市)⇒ <http://www.ryabina.jp/>

ロロ(奈良市)⇒ <http://kanakana.info/bolik-coffee>

ロシア民芸の小さな広場

東京・浅草でロシア雑貨をならべて、「ロシアまつり」が開かれます。ちょっと覗いてみませんか。

日時;4月22日~5月11日(12:00~19:00)

場所;チェドックザッカストア浅草(3F ギャラリー)

(台東区駒形1-7-12/都営浅草線「浅草」下車1分)

TEL;050-3596-9500

主催;ロシア雑貨店パルク+マールイ・ミール

ロシア文化フェスティバル

2014 IN JAPAN

—ヤング・ジェネレーションに光をあてて—

1. フェスティバルオープニング東京

<東京> 6月1日(日)~10日(火)

6月3日(火) オープニング・セレモニー&記念レセプション
／帝国ホテル

6月3日(火) マリヤ・マクサコワ(マリインスキー劇場ソリスト)
&モスクワ・マラジョージヌイ室内オーケストラ・コンサート/
東京芸術劇場コンサートホール

6月1日~10日 ロシア・コレクション 古写真展「明治の風景とそこにいた人々」／毎日新聞社ホール

6月1日(日) ロシア・アニメーション映画祭／浜離宮朝日ホール小ホール「マーシャと熊」「チェブラーシカ」

2. フェスティバルオープニング新潟

<新潟> 6月14日(土)~8月17日(日)

6月21日(土) オープニング・セレモニー&記念レセプション
／ホテルオークラ新潟

6月21日(土) 国立モスクワ音楽院室内合唱団コンサート/
新潟市民芸術文化会館コンサートホール

6月14日~8月17日 チェブラーシカとロシア・アニメーションの作家たち展&ロシア・アニメーション映画祭／新津美術館
(6月14日 チェブラーシカ原作者 ウスペンスキー先生講演会)

6月20日~6月29日 マトリョーシカ&コケーシカ展／新潟市民芸術文化会館ギャラリー

6月20日(金) 全ロシア音楽コンクール優勝者コンサート/
新潟市民芸術文化会館ホール

6月22日(日) シベリアのモザイク 民族ダンスアンサンブル
／新潟市民プラザホール

6月20日~6月29日 ロシア・コレクション 古写真展「明治の風景とそこにいた人々」／新潟市民芸術文化会館ギャラリー

3. レオニード・アニシモフ芸術監督によるドストエフスキー「白痴」、ブレヒト「コーカサスの白墨の輪」公演
1月~10月／10ヶ月間、毎月1回公演／シアターX(東京)

4. チェブラーシカとロシア・アニメーションの作家たち展

4月12日~5月11日／四日市市立博物館

6月14日~8月17日／新潟市新津美術館。

5. シェークスピア原作、ワレリー・ペリャコーヴィチ

(ユーゴザバト劇場芸術監督)演出「ハムレット」公演
2月~6月全国各地にて／出演=M・ドラチャーニン、L・ヤルソコワ他

6. アレクサンドル・ラザレフ指揮日本フィルオーケストラコンサート

5月30日(金)、31日(日) サントリーホール(東京)

6月7日(土) 横浜みなとみらいホール

7. METライブビューイング

4月5日~11日 **ボロディン <イーゴリ公>** 指揮=ジャンナンドレア・ノセダ、演出=ディミトリ・チェルニアコフ、出演=イルダール・アブドラザコフ、アニータ・ラチヴェリシュヴィリ、ミハイル・ベトレンコ他

5月24日~30日 **モーツアルト <コジ・ファン・トゥッテ>** 指揮=ジェイムズ・レヴァイン、演出=レスリー・ケーニヒ、出演=ロディオ・ボゴソフ他

8. イリヤ・イーティン ピアノコンサート

4月24日／東京文化会館ホール

9. レフ・トルストイ原作、加来英治演出「アンナ・カレーニナ」公演 主演=栗原小巻

5月23日郡山／24日~25日福島／27日会津／28日須賀川／29日~31日いわき／6月2日山形／5日泉／6日~8日仙台／9日盛岡／11日秋田／12日弘前／13日青森／14日十和田／16日~17日八戸

10. レールモントフ生誕200年記念映画と講演のタベ

5月16日(金) 浜離宮朝日ホール／上映作品「現代の英雄」(A・コット監督)

11. チャイコフスキー作オペラ「イオランタ」公演

5月27日(火) 昭和女子大学人見記念講堂

5月31日(土) 前橋県民ホール

演出=アナトーリ・ワシーリエフ、出演=A・ワシーリエフ、T・ザヴァーリナヤ、V・ミキーツキイ、M・ディヤーコフ、N・シエムリョフ、V・パンチェンコ、V・イスリヤキンほか、ピアノ=ユリヤ・レヴ

12. エレーナ・オブラストォヴァ国際コンクール入賞者コンサート

5月25日(日) 武蔵野市民文化会館

13. マリヤ・マクサコワ(ソプラノ)&モスクワ・マラジョージヌイ室内オーケストラ・コンサート(*)

6月4日 千葉・京葉銀行文化プラザ音楽ホール

6月5日 横浜・関内大ホール

6月7日 武蔵野市民文化会館

6月9日 埼玉・埼玉会館小ホール

14. ロシア文化人講演会 <チェブラーシカ作家ウスペンスキー先生>

6月16日東京・上智大学(予定)

15. 国立ポリショイサーカス公演

Aコース=7月19日~27日東京／7月31日~8月3日札幌／8

月7日～11日大阪／8月14日～18日福岡／8月21日～24日
周南

Bコース=7月19日～21日長野／7月27日～8月6日横浜／8
月9日～12日所沢／8月15日～19日幕張／8月22日～26日
名古屋／8月29日～31日浜北

16. シベリア民族アンサンブル公演

6月22日(日) 新潟市民プラザホール

6月23日(月) 茅野市民会館

6月24日(火) 千葉・京葉銀行文化プラザホール

6月26日(木) 旭市

17. ワガノワバレエ学校アカデミーワークショップ

7～8月 東京・栃木・神奈川ほか

18. 東日本大震災復興祈念チャリティ・バレエ公演

7月9日(水)仙台／7月14日(月)東京

ボリショイ劇場、マリインスキー劇場、キエフバレエ団ほか
10名のダンサーが出演

19. モスクワ国立ロシアバレエ団(ビャチスラフ・ガルデ ィーエフ芸術監督)

7月11日(金)12日(土) 立川市民会館

20. イリア・ラシュコフスキー(ピアノ)協演、ユベール・ スダーン指揮・東京交響楽団コンサート{ロシア名曲全 集}

7月13日(日) ミューザ川崎シンフォニーホール

21. ロシアバレエ・アカデミーTOKYOコンサート2014

8月17日(日) 東京・ゆうぽうとホール ボリショイ劇場から
ユーリ・バラノフ、カリム・アブドウリン出演

22. タチアナ・ヴェシリエヴァ(チェロ)出演 東京交響 楽団オペラシテシシリーズコンサート

7月20日(日) 東京オペラシテイ

23. エカテリーナ・メチェーチナ(ピアニスト)

7月19日(土) よみうり大手町ホール

7月21日(月) 蕨市立文化ホール

7月22日(火) 横浜・関内ホール小ホール

7月23日(水) 音楽の友ホール

7月24日(木) 松尾ホール

24. マラト・シェミウノフ&イリーナ・ペロン フィーチ ャリング ロシア芸術の美ガラコンサート

8月後半 東京・名古屋・大阪にて／イリーナ・ペレン&マラ
ト・シェミウノフ(ミハイロフスキー劇場ダンサー)、ユーリーコ
ジェバートフ(ピアノ)、タチアナ・ベルマン(ヴァイオリン)、ナタ
ーシャ生田(ビオラ)、ワレンチン・パンチェンコ(メゾソプラノ)、
木曾真奈美(ピアノ&ナビゲーター)

25. ユリヤ・ホタイ&コネヴェツ・カルテット(男声合唱 団+ソプラノ)

9月23日(火) 横浜・関内ホール

9月24日(水) 千葉・京葉銀行文化プラザ

9月25日(木) 埼玉会館小ホール

9月26日(金) 武蔵野

9月27日(土) 浜離宮朝日小ホール。

26. ポスターに見るソヴィエト・モダニズム展

9月30日～11月24日 東京・世田谷美術館

27. ロシア語フェスティバル

11月22日(土) ロシア講演会&ロシア語留学説明会(東京)

12月上旬 ロシア語スピーチコンテスト(東京)

28. ロシア・ソビエト音楽映画祭

9月8日(月)、9日(火)／浜離宮朝日ホール

「ヨハン・シュトラウス」「フランツ・リスト」「ハチャトリヤン一剣
の舞」「エレジー/シャリアピン」

28. 第3回カレン・シャフナザーロフ監督作品映画祭

9月10日(水)、11日(木)／浜離宮朝日ホール

上映作品;「ホワイト・タイガー」「善人たち」「皇帝暗殺者」
「満月の日」

29. 民族工芸・美術工芸作品展

5月～11月 鎌倉コケシカ

30. M・ゴレンシュテイン指揮・読売日本交響楽団&東京 交響楽団とのコンサート

9月28日(日) 西東京市・こもれびホール

10月4日(土) 坂戸市・坂戸市文化会館

31. 日ロ武道交流年記念イベント

10月4日(土) ロシア武道紹介 *エメリヤーエンコ・ヒョー
ドル来日予定

32. ロシアアニメーション映画祭新作公開試写会

11月 東京都内

33. NAMGARナムガル・ブリヤート共和国民族音楽コンサ ート

10月26日(日) 武蔵野公会堂・京都・大阪ほか

34. V・V・アンドレーエフ記念国立ロシア・アカデミー 民族楽器オーケストラアンサンブル+天野加代子(メゾ ソプラノ)コンサート

11月14日～24日 東京・文京シビックホール、横浜・神奈川
県民ホールほか

35. モスクワカルテットコンサート

11月8日～13日 渋谷区文化総合センター大和田さくらホ
ールほか

36. アヴェ・マリア サンクトペテルブルク合奏団

12月 東京ほか

37. ミハイロフスキー劇場管弦楽団第九コンサート

12月28日(日) 横浜みなとみらいホール

12月29日、30日 東京オペラシテイコンサートホール

その他、ヤングジェネレーションイベントとして、全ロシア音
楽コンクール優勝者コンサートなど8本の企画が予定されて
おり、さらに、<プーチン大統領来日記念特別企画>も計
画されています。

鉄路は続く (上)

～モスクワ・ベルリン国際寝台急行列車の旅

神保 泰興 (JIC 東京)

昨年11月、思い立ってモスクワに向かった。モスクワから国際寝台急行列車「モスクワ・ベルリン・パリ号」(第23列車)に乗って、ベルリンまで鉄道の旅をするのが目的だ。

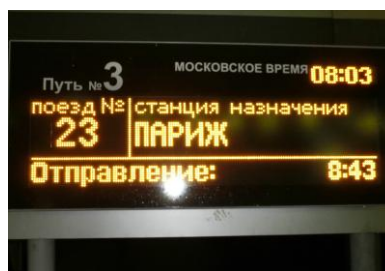
成田からアエロフロート・ロシア航空でモスクワに飛ぶ。搭乗したSU263便は「スカイチーム」スペシャルカラーのエアバスA330-300型。旧ソ連時代のアエロフロートの印象は微塵も残さない。洗練されたスタッフの応対、味、量ともに満足の機内食、十数本チョイスできる日本語映画を楽しんでいると、10時間の空の旅はあっという間に過ぎた。モスクワ時間の夕方6時半過ぎ、雪あかりに照らされたモスクワ・シェレメチェヴォ空港Dターミナルに到着した。

列車は翌朝出発する。クレムリンの北西に位置する出発駅「ベラルスキー・ヴァクザール」そばのマリオット・トヴェルスカヤに1泊。1990年代にオープンしたマリオット系の

高級ホテルで、近年改装され、さらに華やかになっている。モスクワの高級ホテルはどれも週末は大幅にディスカウントするので、うまく日程を合わせれば比較的リーズナブルに利用できる。

モスクワの「ベラルーシ駅」から出発

快適な夜を過ごし、翌朝は少し早めに駅へ向かった。駅舎はトヴェルスカヤ通りをはさんだ広場の向こう側に見えるが、広い通りを渡るには地下道を通らねばならず、駅のホームにたどり着くまで10分ほどかかった。11月のモスクワは朝8時でもまだ暗闇に包まれている。待合ホールには、たくさんの人々が大きな荷物の傍らで目的地に向かう列車を待っている。駅舎を出てプラットフォームに向かう。目指す第23列車は、3番線にすでにその巨体を横たえていた。日本に比べて線路幅が広いのと、ホームが低くはしご式で乗車するのと相まって、日本の列車よりもふた回りほど大きく感じる。隣の4番線には、第23列車の約1時間後に出るミンスク行き国際



2等寝台が2両、続いて横4列の固定式座席が並んだ2等車、次に食堂車。ここまでは旧東ドイツ製の屋根が高い車両で、ロシア国内でたくさん走っているのと同じ型だ。この4両はベラルーシ・ポーランド国境のプレスト止まり。

ここから先がパリ行きとなる7両で、いずれもロシア国鉄の新型車両が使われている。併結・分割をする関係からか、車両固有の号車番号がつけられており、パリ行の7両は後ろから順に特等車250番、私が乗車する1等車253番、同じく1等車254番、そこから2等車が4両、255番、256番、257番、258番と続く。先頭で牽引するのは重連式の電気機関車だ。暗闇に浮かぶ車両はグレーの濃淡2色のカラーリングで、左端にロシア鉄道(RJD)の赤いロゴデザインが大きく描かれている。行先表示板には列車名「モスクワ・ベルリン・パリ」号の文字が並んでいる。

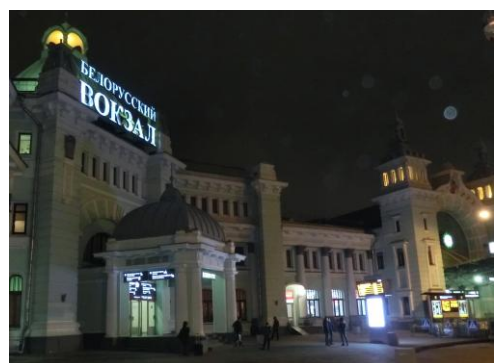


ホームでは写真やビデオ撮影は禁止のようで、パシャパシャ撮っていたら、電気機関車の運転士に大変な剣幕で怒鳴られた。その後、「ホームでは写真・ビデオの撮影は禁止となっております」とアナウンスが流れる始末。発車前からすっかり目立ってしまった。

乗車は発車30分前から、けたたましいアナウンスとともに開始された。各車両ドアの前に並ぶ車掌はほとんどが女性。駅に改札口がないロシアでは、各車両の入口で乗車時に検札が行われる。ロシアでは国内鉄道もEチケット化が進んでいるが、国際列車にはまだ導入されていないようで、すべての乗客が紙チケットを手に入っていた。車両に乗り込む際に、車掌からパスポートを忘れていないか念を押される。

列車も入線している。

乗車開始前にホームを巡って、これから鉄道の旅を任せる列車をじっくりと観察する。モスクワ発の時点で11両編成。最後尾から



快適なコンパートメント

乗車完了。早速、コンパートメントの中を観察する。これから24時間を過ごす大事な居室空間だ。どうやら、1等と2等の車両と室内の構造は変わらないようだ。いずれも片側に3段の折りたたみ式ベッドを備えているが、それを1人、または2人で使用するのを1等、3人で使用するのを2等と呼んでいる模様。乗車時点ではベッドは畳まれたままで、片側に3人がけ座席があり、もう片側には折り畳み式の1人用補助椅子と網棚、ハンガー、



それに鏡台がある。鏡台の扉を開けると中にはコップと水差し。220ボルトの電源ソケットも備え付けられている。鏡台の下にはクロスがけの1人用机があり、袴付きコップ、スプーンが3組、それに急須とパンフ類が置かれている。備品とクロスを横によけて机のフタをあけると



洗面台が現れる。なかなかよくできたつくりだ。



しばらくするとドアがノックされ、手にたくさんのカギを持った車掌が現れた。チケットと引きかえに、下段ベッドの錠を開ける。すると、背もたれが前方にバタンと倒れ、3人掛けの座席がベッドに早変わりした。布団や枕

類はメイキングされた状態で、ベルトで固定されている。ベッドは、通路側を頭にしており、読書灯が付いている。また、コンパートメントのドアの上部には照明と空調を調整するつまみがある。1度ベッドにしてしまうと、再



び鍵を使わない限り座席には戻せない。ベッドは車掌が鍵を使って開け閉めしないと出すことも収納することできない構造になっているのだ。どうやらこのコンパートメントを使うのは当面、私一人のようだ。2段目、3段目のベッドもあるが、車掌は1段目のベッドを出すとそのまま隣のコンパートメントに向かった。

車掌にシャワーはどこにあるのかと尋ねると、前方の254号車に設置されているので、使いたいときには声をかけるようにとのこと。車内にデジタル表示などはないが、通路に水銀温度計がかかっており、列車内はおよそ18度に保たれている。車端のデッキに通じるドア上部にはトイレのサインランプがあり、使用中あるいは使用禁止の時はそれぞれ点灯する仕組みになっている。

後方の特等車(エスヴェー)にも偵察に出かける。各室シャワー付きの2人用コンパートメントが4つ並んでいるだけの贅沢なつくりだ。写真撮影を車掌に申し込んだが、満室とのことで断られた。特等車にはバーカウンター付きのラウンジもあったが、私が乗車している間、営業している様子はなかった。

列車は音もなく発車した

8時43分、定刻どおり列車は暗闇のモスクワ・ベラルスキー駅を音もなく発車した。どんどん速度を増していく。時速100キロ近く出ているのではないだろうか。車窓はモスクワ市内から郊外へ、ノンストップで一気に駆け抜けていく。モスクワを出発して1時間ほどすると、外が明るくなってきた。車窓に映る景色は、高層アパートや渋滞の車列から、白樺やエゾ松の原生林に変わる。線路はロングレール化されているようで、床下から響いてくる継ぎ目音がいつの間にかほとんど聞こえなくなっている。2時間ほどすると、ローミングしている携帯電話の電波も、途中通過する小さな駅の周辺くらいでしか拾わなくなってきた。

トイレは新幹線と同じような真空タンク式で、昔のように、停車中に使えなくなることはない。紙タオルや便座シートも設置されている。車掌がこまめに清掃しているようで、いつもきれいに保たれていた。

落ち着くと一服したくなり、車掌室に行く。ビスケットと紅茶を頼み、55ルーブル(約170円)を払う。車掌室周辺の様子を見ると、この253号車にはロシア鉄道の女性車掌2名と、ベラルーシ国鉄の男性車掌1名が乗車していることがわかった。乗車時の検札や発車の合図、備品の説明、車内販売、お湯の提供などは全てロシア鉄道の車掌が交代でこなしており、ベラルーシの車掌はロシア国内を走っている間はずっと所在なげにぼんやり立っていた。

11時24分、定刻より5分遅れで最初の停車駅ビジャマに着いた。約20分の停車時間の間に、2時間半以上

ダッシュで駆けてきた機関車がここで交換される。各車両の車掌たちが1か所に集まっておしゃべりに興じている。11時43分、定刻の4分遅れで出発。

結構値段が高い食堂車

12時30分ごろ食堂車へ向かう。旧型の車両だが、内装はリニューアルされ、照明はLED化までされている。

しかし、4人がけ8脚、2人がけ2脚のテーブルにバーカウンターまで備えた食堂車内に、先客は2組だけ。その2組が去った後に入れ



違いで入ってきた若い夫婦と2人の子連れの家族はスープとパンだけを注文していた。結局、お客は常に2組を超えることはなかった。おそらく値段が高すぎるせいだ。



ちなみに私が注文したのは、ギリク（ギリシャ風）サラダ320ルーブル、チキンボルシチ200ルーブル、それに黒パン2切れ20ルーブルと紅茶100ルーブル、しめて640ルーブル(約2000円)。これだけのメニューでかなりの金額だ。味は可もなく不可もなくといった感じだが、流

れる車窓を眺めながら温かい料理をいただくのは、食堂車がほぼ廃止されてしまった日本ではほとんど味わえない楽しみではある。食堂車のスタッフは女性3名。2名が給仕、厨房では1名が調理をこなしている様子。しかしこのお客の数では暇を持て余しているのだろう。「夕食もぜひお越し下さい」と言われて食堂車をあとにした。なお、クレジットカードは通信の関係でロシア国内を走っているときのみ利用できるとのことだった。

途中、欧州から走ってくる自動車運搬列車とよくすれ違う。いずれも新車を満載している。欧州だけでなく、中国、そして日本のコンテナを乗せた貨物列車もよく見かけた。ロシア経済が世界経済と密接に結びついていることが窺い知れる。(つづく)

《モスクワ通信》

Eメールと手紙やはがき、どちらが嬉しいですか？

最近、ロシアではポストクロッシングというプロジェクトが人気を増しています。この予想外の増加は「驚きの効果」によって説明できます。人はどの国へ絵葉書を送るのか、いつどの国から絵葉書を受け取るのか、予め分かりません。

インターネットやソーシャルサービスが始まる前、人々は手書きのはがきや手紙を送るのを楽しみました。インターネットが手紙よりはるかに手軽で便利なのは言うまでもありませんが、手書きのメッセージに自分の心の小部分がこもっていると思う人も少なくありません。こうして、ポストカードをやりとりする時代がだんだん戻ってきました。しかも、現今、絵葉書は親類や友達だけではなく、全然知らない人にも送られるようになりました。

ポストクロッシングのおかげで、ロシアの郵便事業も改善されています。ロシアの郵便事業はヨーロッパでも古い歴史を持っています。郵便システムのおこりは10世紀に遡ります。初期の手紙はワックスシールを付けて、ロールの形でした。1634年にポーランドとの平和条約が結ばれると、ロシアの歴史上初めての国際定期サービスとなったワルシャワへの郵便ルートが確立されました。ピョートル1世が郵便システムを統一して、サンクトペテルブルクとモスクワで郵便が開始されたのは1714年でした。100年後、郵便物を鉄道で送ることが可能になりました。

20世紀には航空機を使用するようになりました。最初の航空郵便の発送は、ロシア革命直後の1918年3月31日に、ペトログラードからモスクワへ送られました。1920年代に国内・国際航空郵便は急速に配達しました。

2002年にロシア政府は公共事業体の改革を行い、現在の組織＝Russian Postが誕生しました。郵便局はサービスの種類を増やし、今では公共料金の支払いや年金の受け取りが郵便局でできるようになりました。

全ロシアには14の郵便・通信事業博物館があります。うち2つがモスクワにあります。一つは、郵政博物館（Музей почтовой связи и Московского почтамта）で、場所は地下鉄駅 Chistye Prudy、Turgenevskayaの近く。もう一つは、鉄道郵便博物館（Музей почтовой связи Главного центра магистральных перевозок почты／地下鉄駅 Komsomolskaya）です。

毎年5月ごろ、「博物館の夜」のイベントが行われるとき、郵便・通信事業博物館で「レトロの手紙」というプログラムに参加して、記念にインクびんとガチョウの羽で手紙を書き、封蝋シールを付けることができます。面白いでしょう。

あなたは、大事な手紙を誰に送りますか？

(JIC モスクワ／チスティリーナ・イリーナ)